

芳賀の史跡めぐり

-12-

阿弥陀三尊板碑 〜木福様のお祭り〜

木福様は、毎年旧暦の十月十四日(大安)に行われる五代町の奇祭として知られています。

木福とは、もともと江戸時代以降の地名(小字)で、現在は全て番地表記となりましたが、かつて芳賀村大字五代には、木福をはじめ高橋(曲輪)・大日(古墳)・東田(遺跡)・芝久保・峰久保(いずれも溜池)等、約三十の字名があったようです。

木福様のご尊体は、「阿弥陀三尊種子板碑(あみださんぞんしゅしいたひ)」で、梵字で阿弥陀如来と脇侍として勢至菩薩、観世音菩薩の三尊が刻まれています。



阿弥陀三尊板碑

板碑とは、石仏・石塔の分類では石塔に属する遺跡で、供養碑・供養塔とされており、群馬県内最古(鎌倉時代中期)の板碑といわれる小島田の「阿弥陀岩面板碑」が知られています。これとほぼ同時期の貴重な文化財とされています。

木福様は、この阿弥陀如来の種子(キリーク)がキフクと訛ったものといわれ、旧暦の十月十四日(大安)がその縁日としてのお祭りです。また、諸説あるようですが、江戸時代末期にリングを建てることに信仰の混淆が行われて、性神が祀られ、俗信を集めて地域で有名になったといわれています。そのため、毎年当日は、同じ敷地内に埋めてある巨大な石製の男根を掘り出し、神職(宮司)が来て拝み、当番がお札を配ります。とくに戦前には、参詣

者も多く、賽銭やゴマダング(黒いゴマをまぶしたダング)を捧げ、その後も暫くは、ゴマダングや饅頭を売る青年会等の露店も多く出て賑わっていました。



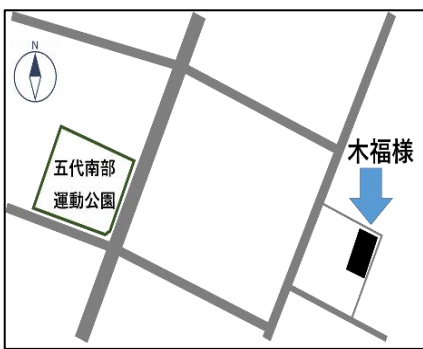
青年会の売店(昭和29年撮影)

現在も開催されているかの確認が有りましたが、五代南部工業団地の只中に位置していることから、今後、周囲に工場が建設された場合の景観が損なわれることが懸念されています。

今でこそ、参詣者や露店の賑わいはなくなりましたが、貴重な有形(板碑)および無形(お祭り)の「指定文化財」としての登録が望まれています。

生涯学習奨励員

吉田 久敏



位置図

11月の主な行事予定

11月9日(土)〜10日(日)芳賀ふるさとまつり(芳賀公民館)
11月16日(土)芳賀地区七つの祝い(芳賀公民館)



嶺公園のカタクリ

公園の中期にカタクリの群生地があります。

三月下旬から四月上旬にかけて十センチ程の花茎を伸ばし、蕾をもった個体は芽が地上に出てから十日程で開花します。

花茎の株に通常二枚の葉があり、幅二・五〜六・五センチ程の長楕円形の葉は暗紫色の模様があります。

花色は薄紫色から桃色の花を先端に一つ下向きに咲かせます。その姿は訪れた人々の心をほっと和ませます。

また、かつては文字通り根茎からデンプンを精製し片栗粉を製造してありました。近年は北海道等で多く生産しているジャガイモより製造されていることが多くなっております。

地上に姿を出すのは四〜五週間、開花期間二週間と短く、春の妖精と呼ばれております。

金丸町生涯学習奨励員

宮内 悟